

### 第3回佐倉市総合計画審議会 要録

|        |  |
|--------|--|
| 日 時    | 2023年8月17日（木）14時00分～17時15分   |
| 場 所    | 佐倉市役所議会棟全員協議会室   |
| 出席者    | 委員出席者 9名<br>（会長）岩渕 明弘 （副会長）押尾 豊幸<br>（委員）安藤 豊明、大嶋 和俊、川端 ふみ、高木 伸雄、林 洋太郎<br>山田 周、吉川 圭子（五十音順）  |
| 事務局    | 向後企画政策部長、和田企画政策課長、小田、齊藤、岩井   |
| 各所属参加者 | 市街地整備課（山本主査）、自治人権推進課（齋藤課長）、都市計画課（鈴木課長）、建築指導課（松本副主幹）、住宅課（前田課長）、土木管理課（平野課長）、道路維持課（齋藤課長）、道路建設課（香取課長）、公園緑地課（渡部課長）、水道課（秋葉副主幹）、下水道課（新川課長）、治水課（鈴木課長）、経営企画課（須田副主幹）、社会福祉課（小林課長）、危機管理課（菅澤課長）、廃棄物対策課（関口課長）、生活環境課（布施課長）、商工振興課（高橋課長）、農業委員会事務局（岩井局長）、農政課（小川課長）、佐倉の魅力推進課（鴨志田課長）、文化課（猪股課長）、広報課（大川主査）、情報システム課（香取課長）、秘書課（櫻井課長）、指導課（榎本参事）、社会教育課（舎人課長）、こども家庭課（佐藤課長）、人事課（村上課長）、行政管理課（川島課長）、財政課（石原主幹）、債権管理課（上野課長）、市民課（増山課長）、施設保全課（佐々木課長）、資産経営課（須藤主査） |
| 議 題    | （1）中期基本計画素案（第2章、第3章、第5章）の主な変更点について<br>（2）意見・質疑応答<br>（3）事務連絡  |
| 配布資料   | 資料1 （2章&3章&5章）中期基本計画基本施策（素案）<br>資料2 （2章&3章&5章）前期基本計画からの主な変更点   |
| 傍聴者    | 1人   |

#### （1）中期基本計画素案（第2章、第3章、第5章）の主な変更点について

##### 事務局説明

- ・前期基本計画との変更点は資料1で下線表示している。
- ・主な変更点（資料1 黄色表示）については資料2のとおり。

#### （2）意見・質疑応答

## 第 2 章

(委員)

再度確認だが、現状値は昨年 3 月末、目標値は 8 年後の目標値なのか。それとも 4 年後の目標値なのか。

(事務局)

現状値は令和 4 年度末、目標値は中期の最終年度である令和 9 年度。

(委員)

令和 9 年度の目標値という記載をどこかに加えるということか。

(事務局)

はい。

(委員)

成果指標の変更がある部分については、その理由等をより分かりやすくしていただきたい。

2-1 都市計画・公共交通について、成果指標の算出にあたり市民意識調査を使用しているが、その有効性も含めて検討すべき。

(事務局)

前回は指摘があったとおり、指標の設定理由を別記するなどを考えたい。

成果指標の設定について、都市計画が佐倉市全体のまちづくり、土地利用について定めるという背景を踏まえ担当課と協議した結果、市民意識調査を使用している。ただし、より適当な指標があるかどうか担当課と検討したい。

(委員)

市民意識調査の対象は各地区が均等になるようにしているのか。

(事務局)

無作為抽出で、各地区や年代が均等になるように対象の抽出をしている。

(委員)

成果指標②「公共交通が利用しやすいと思う市民の割合」の現状値は前期目標値を大幅に超えているがその理由はなにか。

また、高齢化が進む中での交通施策について伺いたい。

(都市計画課)

公共交通が利用しやすいと思う市民の割合が上昇した理由は、コミュニティバスの運行が、市内5路線で開通され、空白地域が一旦解消されたため。

高齢者に対しては、コミュニティバスを高齢者の方は半額にする等の取組を進めている。

(委員)

ゼロカーボンシティの政策の中で公共交通についてどのような取組をするのか。

環境基本計画の中での低炭素社会についての取組があれば伺いたい。

(生活環境課)

ゼロカーボンシティという観点では、住宅用の省エネルギー設備等の普及に努めており、そこに何か支援ができないか考えている。

まちづくり全般として、関係部局と連携して低炭素社会の実現に向けて取り組んでいきたいと考えている。

(事務局)

公共交通以外の移動手段について、観光部門でレンタサイクルをやっており、土木部門で自転車活用推進計画も検討している。

(委員)

成果指標について、目標値を44%にした根拠を伺いたい。

(都市計画課)

この指標は公共交通網形成計画でも使用しているが、計画を策定した平成29年度からの平均上昇率を踏まえ、令和9年度での到達見込みとして目標値を設定した。

(委員)

2-2 住宅住環境について、前期では空き家対策についての成果指標があったが中期で外した理由はなにか。

(住宅課)

住生活基本法において、住宅と住環境をまとめて対策を立てるという考えを持っており、2施策を統合したため空き家率が指標から外れている。

(事務局)

空き家率については5年ごとに国が測定するもので、今年度調査中、6年度公表予定。次回は令和10年度調査、11年度公表予定のため、そもそも進捗管理できないことから、今回、指標から外した。

(委員)

住宅・住環境の整備に関連して、市街化調整区域の見直しなど他部門にわたる取組はどうなっているのか。

(事務局)

市街化調整区域や市街化区域の区分見直しについては、都市計画審議会を経なければならずハードルが高い。その区分による規制を緩和するような条例改正は行っているため、それを活用して空き家解消や新たな家を建てるなど取り組んでいきたい。

(委員)

2-3 道路環境について、成果指標の目標値を面積表示とした理由を伺いたい。

(道路建設課)

まず道路用地を確保してから工事となるので、道路に必要な用地買収の面積を目標値として設定した。

(委員)

成果指標の通学路改修箇所数だが、目標箇所数に加えて達成率などの割合も記載しておくべきだと思う。

(道路維持課)

この指標の対象は相当数あり全て整備するのは困難であるため、まず市内の小学校に近いところから整備していくことを考えている。学校から近い範囲の位置づけが難しく、割合を出すのが困難であるため、改修箇所数という目標を設定した。

(事務局)

改修必要箇所が何箇所あるのか数値を出し記載できるのか、担当課とも協議し考えてい。

(委員)

施策 2 でカーブミラーなど交通安全施設の整備を挙げているが、その整備数といった指標があるといいのではないか。

(道路維持課)

カーブミラーなどの交通安全施設はあくまで補助的な施設になり、設置すればいいとは一概にいえないため、目標値とするのは適当ではないと考えている。

(委員)

公安委員会と連携して施設整備を図り、それを指標にすることはできないのか。

(道路維持課)

例えば道路においても警察、道路管理者など多くの者が関わるので、連携して整備を進めるべきだと考えている。

(委員)

現状値の記載がない、もしくはできないものについては前期 4 年間の実績値を入れることも検討してほしい。

(委員)

2-4 公園・緑地整備、施策 3 市民協働の維持管理に関して、公園保全ボランティアなどはシルバー層を中心に意欲的な人がいるだろうが、取組の存在や参加方法が分からない人も多いと思う。広報も含めボランティア誘引についても加えてほしい。

(公園緑地課)

広報さくらやホームページなど周知を図っていききたい。またボランティア誘引を総合計画の中に位置づけるかについても検討したい。

(委員)

公園・緑地に特化した内容になっているが、みどりの基本計画では広くみどりについて触れている。森林など、公園・緑地以外の整備活動についても検討してほしい。

(公園緑地課)

森林などは私有地であることが多く、行政が介入するのは難しい点も多い。みどりの基本計画では広くみどりについて捉えているので、その辺りの広報・周知を図っていききたい。

(委員)

2-5 上下水道について、下水普及率についてはほぼ 100%に近い数字かと思うが、点検調査率は現状値が 11.9%、目標値が 25.2%という数値になっている。この数値が低い理由は何か。

(下水道課)

下水道関係は全部で 820 キロあり、点検調査を始めたのが平成 30 年からである。年間 20 キロ程度進めるようにしているが始めたばかりということもあり低い数値となっている。最終的な目標としては令和 35 年までにひと通り終わらせようと計画している。

(委員)

排水ポンプ施設の更新数について、現在の施設基数と、今後の更新の計画を伺いたい。

(治水課)

都市施設としての排水ポンプ、仮設ポンプが 17 施設あるが、今回の指標で想定しているのはポンプ本体に加え、操作盤、水位計遠隔監視システムなど多岐にわたり、全てで何基、何箇所になるかは手元に資料がないが相当数ある。それらを概ね耐用年数程度での更新を目指すとして 4 年間で 18 基ということになる。

(委員)

課題に霞ヶ浦導水の完成に向けて必要な施設整備を進めていくと記載があるが、これは必要なのか。

(事務局)

霞ヶ浦導水の整備は佐倉市単独で行っているわけではなく、印旛広域市町村圏事務組合を通して出資金を支払い、国で工事をしているというもの。印旛郡内で統合していくことが重要であるため佐倉市としてもこの負担金を支払うことで水源確保を図っていくこととしている。

(委員)

2-6 消防・防災、成果指標の消防署庁舎の大規模改修件数について、既に大規模改修が終わった庁舎はあるのか。また、この改修は組合実施かと思うが、他自治体との整合性が取れたうえでの目標設定なのか。

(危機管理課)

これまでの大規模改修の経過については、角来の出張所が旧耐震の建物であったため、白銀に消防署ができたことをきっかけに耐震改修と併せて大規模改修を行った。

また、大規模改修の計画は八街市、酒々井町と合わせて計画をしており、今回の中期基本計画期間で佐倉市は 2 施設を予定している。

(委員)

施策 4 災害に備えた体制の治水対策について、千葉県だけでなく民間や地域全体での連携を図った取組を検討してほしい。

(事務局)

みどりの基本計画で掲げるグリーンインフラや、農業系施策にある田んぼダムなどがあるので表記の仕方も含めて検討したい。

(委員)

目標値は右肩上がりの表記の方がいい。成果指標 3「災害に対して備えのない市民の割合」についても「備えのある市民の割合」にし、数値の増加として表記した方がいい。

(事務局)

担当課と検討したい。

(委員)

2-7 防犯・交通安全は前期と変更ないが、目標値の表記の仕方について、犯罪発生件数・交通事故発生件数が減少しているという表記より、限りなく 0 に近づけるといった表記にすべきではないか。

(事務局)

前期計画の指標をそのまま使用している。数値化は難しいかもしれないが担当課と検討したい。

(委員)

2-9 環境保全について、施策 4 でゼロカーボンシティの実現を掲げているので、成果指標 4 の温室効果ガス排出量も市役所に限らず市全体の排出量という目標にならないか。

(生活環境課)

排出量については環境基本計画の中で地域全体の数値を取り上げているので、市役所の数値とどちらを入れるか考えたい。

(委員)

環境基準適合率とはなにか。

(生活環境課)

大気、水質、騒音など様々な項目があり、佐倉市内の全ての調査地点数とそれぞれの地点で調査している項目の合計が 373 項目あるのだが、このうち環境基準に適合している割合が 98.6%ということ。佐倉市が未達成の主な項目としては、光化学オキシダントや河川水調査のうち大腸菌がある。

(委員)

誰が見てもわかりやすい表現をしていただきたい。

(生活環境課)

検討したい。

(委員)

成果指標 2 ごみ排出量について、人口が減れば当然ごみの量も減るが、この目標値設定は適切なのか。

(廃棄物対策課)

確かに人口が減ればごみの量も減るが、今後市全体でどのくらいごみの量が排出されるのかは継続的に見ていく必要があると考える。一般廃棄物処理基本計画の中では 1 人当たりのごみ排出量も出しているため、比較することで個人のごみの量が減ってい

く状況が把握できると考えている。

(委員)

全体的な話として、今 Well-being といった市民の幸福度のような数値がある。そのような数値を用いて、佐倉市の満足度を向上させるような取組をしていただきたい。

(事務局)

国で策定されたデジタル田園都市国家構想総合戦略を受け、中期基本計画ではそれらを重点施策として表現したいと考えており、その中でまち・ひと・しごと創成総合戦略に関わる人口関係の指標設定を考えている。満足度調査を市民意識調査で行っており、その平均を Well-being と言っていいかは分からないが、そのような取組も検討したい。

### 第3章

(委員)

3-1、商工業振興について、成果指標の③の職業相談室における市内紹介件数の就職率は市外を含めたらどのくらいになるのか。

(商工振興課)

佐倉市内では 26.1%、成田ハローワーク管内では 24.6%、千葉労働局・千葉県全体では 21.1%となっている。

この率については、例えば相談に来た人が就職の会社を 3 社紹介され、そのうちの 1 社で就職が決まると 33.3%といったような形になり、そのように算出した率が 26%程度である。

(委員)

ということは 4 分の 3 程度は相談に行っても決まらないということか。

(商工振興課)

1 回の相談で 3、4 社紹介することもあり、決まることもあれば決まらないこともある。

あくまで相談に行き、相談員が提示した会社の中でどれくらい就職が決まったかというような率になるので、1 回にたくさん紹介すればその分率は下がるので、就職に悩んでいる方の話をどう整理し、向いている会社はどこなのかを判断するといった相談員の頑張り、テクニックも関わってくるということである。

(事務局)

前期基本計画の際にも悩みながら作った指標であるが、今の説明でも少しわかりづら



い印象を受けた。代替指標の検討も含めて担当課と相談したい。

(委員)

施策 2 で佐倉インターチェンジ周辺と具体的な場所を挙げているが、実際に施策として動いている場所なのか。具体的な動きがあればいいが、そうではない場合に施策として特定の場所を指定するのはどうかと思う。

(商工振興課)

この部分については民間開発も含めて表示している背景があり、都市計画部門との連携を強化しつつといった表現を加えているのだが、実際、都市計画部門への相談は複数件あると聞いており、この表現のままをしたい。

(委員)

成果指標 2 の現状値が 4 人とあるが、これは過去 4 年間で 4 人ということか。

(商工振興課)

令和 4 年度 1 年間で 4 人ということ。

(委員)

提案なのだが、以前私がこの起業塾に参加した際の募集は平日水曜日の午後 6 時からだった。その時間では子供のいる両親は受講が困難。私の周囲では起業に興味のある人も多いので、そういった層に向けた促進やサポートを積極的に打ち出せば参加者も創業者も増えると思う。

また、スマートオフィスプレイスも 10 歳以下の子供の同伴もできない。子供の預け先におけるサポートもしてもらいたい。

(商工振興課)

起業塾についてはコロナを踏まえオンライン開催も実施しており、ご指摘のあった層における対応も少しずつだが行っている。

またスマートオフィスプレイスの託児についても指定管理を実施しているが、企業塾も含めて啓発の部分でさらに取り組んでいきたいと考える。

(委員)

佐倉市の子育て情報発信 LINE ではよくお知らせをもらえるので、同様の周知啓発もできるのではないかと思う。ぜひ発信を。

(商工振興課)

参考にさせていただきたい。

(委員)

成果指標にある佐倉商工会議所会員事業者組織率はどう算出しているのか。

(商工振興課)

商工会議所と連携して行っているのだが、恐らく商工センサスの数字を基に算出している。

(委員)

現在何%の組織率か商工会議所に聞いて、それを50%にしようということか。

(商工振興課)

その通り。

(委員)

3-2 農業振興に関して、農業施策が中心になっているが、森林関係の施策がないように見える。森林環境贈与税も発生する中で、森林の整備についてどう考えているのか。

(農政課)

市内の山林を全体的に見直し、幹線道路に近く崩れやすい、災害の際に危険、手入れがあまりにもされていない等の箇所を15箇所選定した。これらを毎年2,000万円程度使い、毎年1箇所ずつ整備しようとして予定している。

(委員)

当然民地になると思うが地主負担についてはどうなっているのか。

(農政課)

地主負担はない形で検討している。地権者の同意をいただいたうえで市の方で整備をしていきたいと考えている。

(委員)

併せて竹林も計画に組み込んでいただきたい。

(農政課)

検討したい。

(委員)

成果指標に用いられている面積が多いのか少ないのか理解できない。何かわかりやすい数値はあるか。

(農政課)

佐倉市全体の面積が10,369ヘクタールでそのうち耕地面積、つまり田畑が2,840ヘ

クタール、そのうちの指標に係る面積が 700～800 ヘクタールということ。

(委員)

成果指標 1 と 2 の面積は重複しているのか。

(農業委員会)

耕作されている土地、農地の面積としては重複している部分があるが、それぞれ異なる性質のものもあるので、指標も分けて設定している。

(委員)

3-3 観光振興について、成果指標 2「となりの佐倉」閲覧数の現状値は半年間の数値、目標値は年間の数値で記載されているということで間違いはないか。

(佐倉の魅力推進課)

その通り。このサイト運営を始めたのが 6 月からになっているため年間ではなく半年間の数値を算出している。

(委員)

半年間で約 15 万件であれば単純計算すると年間約 30 万件になる。目標値として適切ではないのではないか。

(佐倉の魅力推進課)

目標値は現状値を踏まえると現状維持という形になるのだが、始まって間もないサイトなので閲覧数がどう推移するか不明であり、減る可能性もある中で現状維持としたところ。

(委員)

成果指標 1 について「イベントを除く」とあるがどのようなイベントが除かれているのか。

(佐倉の魅力推進課)

この指標における数値は市内 14 施設ある観光文化施設の年間入場者数としている。イベントとしては花火大会や時代祭りなどを想定しており、これらはその年ごとに様々なイベントがあつたり、またイベントが開催されなかったりするなどの理由で一定の数値が出ないため数値として除くこととしている。

(委員)

「観光文化施設等入込客数」などの方が分かりやすいのではないか。

(事務局)

前期と同様の指標を採用した側面があるので担当課と検討したい。

(委員)

課題にある観光客の滞在時間の増加に関連して、佐倉市は宿泊できる所が少ないように感じている。宿泊施設の増加もひとつだが、ふるさと広場周辺にRVパークがあるといいと思う。キャンプやアウトドアの流行を受け車中泊が増え、関連動画も人気であるため、RVパークを起点に佐倉に滞在してもらい、周辺に足を運んでもらえるようになればいいのではないかと思うので、ぜひ検討していただきたい。

(佐倉の魅力推進課)

RVパークやキャンプ場と、ふるさと広場や草ぶえの丘との連携を強化できれば効果的だと考えているので、参考にさせていただきたい。

(委員)

3-4 文化芸術振興について、施策1に文化財の保存、活用、魅力向上とあるが、例えば堀田邸の閉館後の夜間貸切などの取組はできないか。富裕層向けの取組として文化財に付加価値を付けたパーティー、宿泊などもいいと思う。対インバウンドを考えればそのような取組に多くお金を出してくれることも期待できるし、少人数でもお金を多く使ってくれることを目標にしてもいいのではないかと思う。そのような取組をふるさと納税の商品にするといいと思うので、ぜひ検討していただきたい。

(文化課)

平成20年頃から撮影使用料を設定してロケ誘致を積極的に実施している。コスプレ撮影やフォトウェディングで堀田邸を活用することも実施しており、収入源のひとつになっている。今後も積極的に考えて実施していきたいと考えている。

(委員)

どこにターゲットを絞るかによって対策も異なってくる。富裕層向けの取組についてもふるさと納税も関連させながら実施してほしい。

## 第5章

(委員)

5-1 コミュニティについて、成果指標にある自治体・町内会加入率は100%が理想だろうが、高齢化や世帯数増により今後減っていく可能性もある。その点についての考えを伺いたい。

(自治人権推進課)

佐倉市のみならず全国的に自治会等の加入率は落ちてきているというのが現状である

が、一方で強制的に加入させるものでもないため、対策としては、自治会等の魅力的な活動というところになると考える。そのために、新規転入者に対する自治会等の役割の周知や広報を積極的に実施していきたい。

(委員)

5-2 平和・国際化について、指標の現状値や目標値はどのように集計しているのか。

(広報課)

市民意識調査に指標の項目を設定し集計している。

(委員)

5-3 情報発信・共有、広聴について、施策に関係人口や交流人口を挙げているが、現状値を把握しているのか伺いたい。

(佐倉の魅力推進課)

関係人口や交流人口の数値を出すことは困難で、現状値は把握していない。

(委員)

成果指標にある魅力発信サイト閲覧数について、3章で出たとなりの佐倉との関連はあるのか。

(佐倉の魅力推進課)

3章で出たとなりの佐倉は観光情報発信サイトとして運営しているが、5章の魅力発信サイトについては定住促進を目的として運営しており、佐倉市出身のアスリートや佐倉で活躍する人のインタビューなど、佐倉の魅力発信を主としている。

(委員)

5-5 行財政運営の成果指標「電子申請サービスの利用手続数」について、前期での目標値は50件であったが、実際は201件まで伸びている。今後の4年間では300件よりもっと増えるのではないか。

(情報システム課)

前期基本計画期間ではコロナ拡大を受けオンライン申請拡充を図ったことにより、急激に手続数を増やした経緯があった。担当課としても今後4年間で同様に手続数を増やすことは困難であると考えているが、それでも各年度で20件ずつ増やしていくことを目標に今回設定した。

(委員)

この手続数というのは年間201件ということだろうが、営業日換算すると1日1件程度。これは他自治体と比較して多いのか。

(情報システム課)

この手続数の考え方としては、個々の手続というよりは手続の種類となる。実際に市民から回答いただいている件数としては令和4年度実績で27,000件程度、他自治体と大きな差はない状況。

(委員)

できれば市民が見た時にわかりやすい表現にしてもらえるといい。

(事務局)

検討したい。

(委員)

5-6 資産管理・運営について、成果指標1の内容を詳しく伺いたい。

(施設保全課)

現在、公共施設等総合管理計画等で施設の利用やサービスの提供について見直しているところ。その中で年間1事業ずつ方向性を決定していくということで設定している。

(委員)

決定したというのがどういうことか伺いたい。

(施設保全課)

指定管理者制度も検討のひとつだが、今後の人口も踏まえ建設費や維持管理費を抑えていく中でどのような手法が有効か、その方向性が決定した件数である。

(事務局)

佐倉市の公共施設の老朽化が激しくなっていており、これを今後どうしていくのか検討が必要だという趣旨なのだが、表現の仕方も含めて検討したい。

(委員)

5-7 企業・高等教育機関等との連携について、現状値が下がっている理由を伺いたい。

また、包括連携協定に着目しているが、分野特化して協力してくれる企業もいると思われる。もっと間口を広げてもいいのではないか。

(事務局)

現状値が下がった理由については、高等教育機関との連携で多かった公民館における講師派遣などがコロナの影響でできなくなったためである。その他大学へ市のイベントブースを出す取組もしていたが中止せざるを得なくなったことも一因である。

包括連携協定に限らない指標設定にすると数非常に多くなってしまい集計も困難であ

るため、企画政策課で把握でき、かつ他分野に渡り実施しているものに限定して設定している。

(委員)

災害協定なども含まれるのか。

(事務局)

この中には含まれていない。災害時応援協定は数も多いが、協定に基づく実施となると災害が起こるか否かに大きく左右される。災害が発生してはじめて実施される協定ということもあり、今回の指標設定にあたっては、通常業務の中で連携できるものを設定している。

(委員)

事務局においては本日出た意見について今後の参考にさせていただきたい。

### **(3) 事務連絡**

次回の審議会は、9月22日(金)の開催を予定している。

会議録について、会議終了後、要録を事務局で作成し、各委員に確認のうえ確定し、公表する手続きを取る。会議録の確認をお願いしたい。